

特集 筑西市 須藤茂市長インタビュー

「住んで最高! 筑西」の実現へ

「未来へ挑戦」8年間の実績

今年4月の市長選で『住んで最高! 筑西』の実現を公約に掲げ、見事3期目の当選を果たした須藤茂市長。筑西市を見つめ続けてきた8年間の実績のもと、道路インフラの整備、小中一貫校の推進、企業誘致など、誰もが住みやすいまちづくりの実現に向け、政策を推し進めていく。自分一人の力ではなく、人と手を取り合うことで生まれる力を信じ、市の未来のために挑戦を続ける須藤市長の思いを聞いた。



周囲の人と共に歩む

「期目を迎えるにあたっては、これまでの8年間やってきましたことを一つの実績として、今後も職員と協力しながら政策を進めていきたいと思います。」

筑西市内に環状線を

都市計画道路である玉戸一本松線は、県指定の第1次緊急輸送道路である国道50号と国道294号を連絡し、緊急輸送を円滑に実施...」

着実に進むバイパス整備

国道50号下館バイパスについては、2020年時点で総額350億円として事業化が決定...」

環状線整備で利便性向上と経済活性化

住みやすい、安心安全なまちづくりを目指す上で、道路網はもろもろ重要になってくる。しっかりと事業を進めていきたい。

明野地区に小中一貫校を

明野地区の小学校では、すでに複式学級化が進んでいるところもある。人口減少により、今後、教育上望ましくない環境となることが想定されるため、明野中学校と統合することによって小中一貫校として整備を進めることになった。



明野地区の小中一貫校(完成予想図)。6学年用の校舎、体育館を整備する

あらゆる「平等」のまちづくり

一市三町が合併した時、これらが平等に発展していかねば、合併の意味がなくなってしまう。平等な発展を目指すためには、それぞれの地区ごとの特徴があるのを、それを活かさなくてはならない。

雇用対策としての企業誘致

今は真開業公社とタイアップして、猫島地区で工業団地造成事業を進めている。本年6月頃には約24.4haの造成が完了するので、今後はそこで企業誘致が進んでいく予定。

地元建設業との繋がりが大切に

筑西市は農業都市だが、やはり商業・工業・農業などのバランスが取れた都市にしていく必要がある。

大切な建設業界との繋がりを

災害時の協定については、建設業を中心にあらゆる業界と結んでいる。2016年には筑西建設業倶楽部と「災害時における応急作業に関する協定」を結んだ。協定締結前にも、東日本大震災の時に倒れたブロック塀の処置などを協力していただき、非常に助けて頂いた。また、2013

「住んで最高! 筑西」の実現を公約に掲げたので、やはり小さな子どもからお年寄りまで、平等に、切れ目のないサービスを受けられるまちにしていきたい。

これから住みよいまちづくりを

年には筑西市電友会と「災害時における電気設備等の応急措置及び復旧工事に関する協定」も結んでいる。コロナ禍でなかなか繋がりを持てないご時世だが、市内の業者さんとは互いに要望を聞き合い、協力し、繋がりを大切にしたい。



プロフィール 須藤茂(すとう・しげる) 1951年8月7日生まれの69歳。74年に大東文化大学を卒業。2003年に旧下館市議会議員就任。13年、筑西市長に初当選。8年間、市長を務め、今年4月に3期目の当選を決めた。趣味は野球、釣り。モットーは「一人では何もできない」。

Table listing construction companies in Chikushi City, organized by industry and company name, including contact information.